

## 第1回準備会会議録

- 1 日 時 平成14年12月19日(木)  
18時30分開会 20時45分閉会
- 1 場 所 柏崎市役所大会議室
- 1 出席委員 桑山、水地(阿部代理)、小林、小山、佐藤、高橋、武本、田辺、内藤、池田(中澤代理)宮崎、渡辺(丈)、渡部(五)  
以上13名
- 1 欠席会員 田村、丸山 以上2名
- 1 その他出席者 新潟県原子力資源・案電対策課熊倉係長、柏崎市品田市民生活部長、西山町徳永まちづくり推進室長、刈羽村塚田企画広報課長  
東京電力中林副所長、岩城副所長、菅沼広報部部長
- 1 司 会 柏崎市酒井防災・原子力安全対策課長

開会に先立ち、本会の公開について諮り、全会一致でマスコミフルオープンとした。  
出席者自己紹介後議事に入る。

### 議事

#### 品田部長

それでは、私の方から次第にあります3番を中心に4番議事と書いてありますけれども、いろいろこの会の趣旨等を説明する関係から、仮に議事とさせていただきました4番の(1)、(2)、(3)、(4)あたりぐらいまで食い込むかもしれませんが、どうして今日皆さんからお集まりをいただいたかというあたりとか、この会はどういうことをやっていただくのがいいのかあたりを考えていただく、とまぐちに私の方から資料に基づきまして説明をさせていただきます。

既に12人になりますけれども、名簿であいうえお順に阿部さん以下渡辺さんまで、各地域のそれぞれの主に団体から選ばせていただきました。これは全く私どもの準備会ということ、準備をするにあたりまして任意といいますか、特段の意図を持ってやったものではありません。地域でそれぞれオピニオンリーダーということで、それぞれの立場でいらっしゃる皆さんの中から、もっといるんでしょうけれども、人数等の制約もある中で、15人ということで選ばせていただきました。

その際に、ご案内する際に、この資料の設置に向けての基本的な考え方という、この趣旨等を書いたものをお示しをしながら、ご案内をさせていただきましたので、あらましお目通しはいただいているかと思えます。けれども、また言葉で若干補足をしながら、若干のお時間をいただいて説明をさせていただきたいというふうに思っております。

なお、この基本的な考え方には、新潟県・柏崎市・刈羽村・西山町ということで行政の名前になっております。それから、東京電力さんにも今日はお出席をいただきました。ですけれども、これはこの設置をするにあたりまして、私どもの方が行政が声をかけた方がいいといいますか、腰を切るにはその方が適当だろうということでご案内をさせていただ

き、また今日私なんぞがご説明をさせていただいているというのは、そういうことなんだということでご理解をいただきたいと思います。後ほどまたお話をいたしますけれども、この準備会の中で（仮称）地域の会をどういうふうに持っていけばいいのかというのは、皆さんのご意見をいただきながら考えていっていただくと。そのリード役といいますか、まとめ役というところとちょっと変ですけれども、そういうことで行政が関与した方がいいだろうとこういうことでございますので、その辺もご理解をいただければありがたいと思います。

それでは、基本的な考え方の1ページをご覧をいただきたいと思いますが、既にご存じのとおり状況でございますが、今年8月東京電力の自主点検作業記録不正事件が発覚をしたということで、当地だけではなくて全国を揺るがす、場合によっては世界にもちょっと響くような大きな事件が発生したわけでありまして、事業者はもとより、国・自治体もその原因が何であるのか、どういうふうになればその再発防止が防げるのかというようなことでいろいろ検討してきているわけでございます。東京電力さんの調査報告等も出たわけでありまして、行政の立場で言いますと、一定の限界はあるわけですが、さらなる強化といいますか、安全管理等に向けまして、再発防止を防ぐ意味からも、さらなる要望強化あたりを要請しているというところでございます。

趣旨の中ほどに書いてありますけれども、今回の事案の背景にはいろいろ分析すれば要因があるだろうというふうには思っておりますけれども、特にその原子力の部分がわかりにくい、情報が十分公開をされていない、あるいは専門性とか特殊性のゆえに、つい閉鎖的になってしまっていて、自治体等も含めまして、住民、市民の目からはやや隔離された状況に置かれてしまっているというように、見えにくいといいますか、そういったのが原因の大きなところにあるのではないかとこのように指摘されているところであります。立地地域としましても、そういった発電所の安全運転管理というようなことに、透明性を少し高めていく必要があるだろうというようなことで、一元的には国が責任を持っているという建前になっているわけですが、補完的に地域でちょっとこれが適当な言葉かどうかわかりませんが、地域で干渉をするということが必要なんではないかというようなこととか、とかく閉鎖的だと言われる国、事業者に対して情報の公開を求めながら、いい意味で情報を共有して、そこから得たいろんな知見等に基づきながら、国、電力に意見、提言等を申し出ていく必要があるんじゃないかというふうに感じております。

というような背景がございまして、私どもとすれば、このレジュメの2番にありますように、安全運転を確保する地域の会と仮称でございますけれども、立地地域の住民の皆さんで参画をしていただきまして、第三者的な機関、これ地域の会というふうには今後言わせていただきますけれども、これを設置をしまして、立地住民の目から原子力発電所の安全確保に関する事業者の取り組みですとか、国の規制検査、それから県、市の方がやっております自治体の監視活動等を確認していただく、見張っていただくというようなことをしていただきながら、気のついたことを指摘いただく、要望等を行っていただくというようなことをやる場として、こういう会を設けたいというふうには考えたところであります。

実は、これはご存じのように東京電力の再発防止策というところの一つとして掲げられておりまして、東京電力から事故の後に私ども公に提案された経過がございまして、実は私ども市村としましても、こういったものができるかと、例えば防災でも強化した場面

にしても、何かこういう監視機能的なものが設けられないかというような検討をしておりますし、市長、村長がベルギーに行きまして、フランスとかではこういった住民による監視組織みたいなものがあるというような情報も得ておりまして、ちょっと検討せいという指示もいただいていたところでもあります。そこへたまたまというところとちょっとあれですけども、東電さんの方から具体的な提案がありました。

私どもは東京電力さんが全部仕切るのでは、東京電力のP A活動の一環になってしまうのではないかというようなことから、少しそれを我々なりに、行政なりに咀嚼をして、いい意味で薄めてといいますか、行政の目を通して、少し地域全体に広げてみてはどうかということによってちょっと検討をさせていただいたものであります。

柏崎市もちろんですけども、県、刈羽村、もちろん電力さんともいろいろ相談は正直させていただきました。ということで、ではこういうものを作ってはどうかということで、今日お集まりをいただいて、今の段階でのとりあえずの私どもたたき台といいますか、提案みたいなものをさせていただきながら、ご意見をいただいて十分加工していただいて結構だというふうにご思っていますけれども、そういうことでお願い、今日のお集まりになったわけでありまして。これが背景でございます。

具体的にこの会というのは地域の会、準備会ではなくて地域の会なんですけれども、何をやるかということでもありますけれども、資料の3ページ目に4番地域の会準備会というところで、準備会で決定する事項というのが上から8行目ぐらいにございます。会の目的ということで、私どもなりに考えますと、今言いましたような原子力発電所の安全運転の状況とか、万が一の場合の影響等そういったものを監視をすること、まずそれを大前提としまして、十分な情報提供を事業者等からいただくということは前提でありますけれども、それを受けまして地域でそれを監視する、気のついたことを物申すというようなことで、さらにはこの場で議論されているんな意見出るわけですけども、それを住民の皆さんに情報を提供していきたいと。集約をして整理をして掲げて、あるいはもっと言えば、この会のフィルターを通して悪く言えば加工して出すという意味ではございませんで、こういう議論、こういう情報提供があって、こういう議論がこの場でされて、こういうことを電力に申し上げたと。それに対して例えば電力はどのような反応をしたとか、そういったことをつぶさに出して住民の皆さんにいききたいとこういう意味でございますけれども、そういった情報提供をしていく。この柱ということと言いますと、この二つが大きなメインになっているわけでありまして。こういうふうな役割を担わせてはどうかということで私どもとしては今のところ考えています。というのが大体のアウトラインでございます。

それから、もう一つだけちょっと申し上げておきたいんですけれども、この議事の中身の方に若干入ってしまいますけれども、(5)の情報共有会議というちょっとわかったようなわからないような名前があります。地域の会がありながらこれはどういうことなんだというあたりを、組織的なことでちょっとご説明をさせていただきたいと思っておりますので、2ページをお開きいただきたいと思います。

実は図から下に書いてあるところ、図と下の四角で囲ったところをごらんいただきながらお聞きいただきたいんですが、ちなみに四角の中の「地の会」と書いてあるのは「地域の会」の誤植でございますので、お気づきだと思いますけれども訂正をお願いいたします。

地域の会、情報会議ということなんですが、地域の会というのは、住民の皆さんだけに

よるものを考えております。ここで、いろんな意見、自治体、国、それから電力から情報を公開していただき提供を受けながら、いろんなテーマとか、事象とか、事故とかというものもあると思いますけれども、こういったものについて情報の提供を受けながら、住民地域の会、住民のみで集まる会で、いろんな情報交換とか意見交換をしていただくというのがこの地域の会であります。この四角の1番に書いてありますように、年数回3回とか4回ぐらいになると思いますけれども、年何回か定期的開催をして、ここに書いてあるように情報を得たり意見交換をする、こういうことのほか、このメンバーだけで臨時的、あるいは随時に自主的に皆さんの意思で会合を持っていただくということもやっていただいているのではないかと。まずそういうのを一つ住民の皆さんの方による会をつくろうというふうに思っています。

この年3、4回やる定例会には、事業者、国、それから関係自治体も含めて情報共有会議というような名前にして、三者なり、四者なりで会合を持とうと、こういうふうにしたというふうに思っています。

ちょっと重複しますが、2番の情報共有会議というのは、この地域の会に事業者等を加えながら、これらの団体と意見交換をすると。したがって、この地域の会の定例会、4回に定めるか、3回に定めるか、6回にするかというのは別にしまして、この地域の会の定例会と情報共有会議であると。そのほかの地域の会は独自でこれにこだわらず集まりを自分たちだけで持っていただいてもいいですし、場合によっては臨時に東京電力さん、ちょっと話を聞かせてくれと、こういうことをお願いして加わってもらってもこれ一向にいいんだと、こういう形としては二つになっておりますけれども、実態とすれば1本でやるということ考えているところであります。

いずれも事務局は広報センターに委託をしたいなと私ども今の段階で考えているわけですが、また議論の中で、皆様のご意見の中で、これは全部我々自分たちで運営するという声があれば、それはそれでも例えば構わないわけですし、一つのたたき台としてお示しをさせていただいたということでもあります。

本日は細かく、もしこういう会ができるのであれば、結構定めなければならないことがあるわけですが、会のメンバーをどうするのかとか、会の任期はどうするのかとか、3ページにありますように10とか20項目ぐらい、まだあるかもしれませんけれども、そういったのがすべて正式な地域の会に立ち上げていかなければならないと思いますけれども、今日はその前段ということで、私が今る説明をさせていただきましたような大枠のことについて、とにかく共通の理解をしていただくということが先であります。その中で一定の理解がいただけましたら、次の具体的な会による設立運営という具体的な詰めになるかというふうに思いますので、今日私の舌足らずの説明でございましたけれども、若干皆さんと意見交換をしながら、こうした方がいいんじゃないのというご意見をいただきながら、あるいはその前にご質問等があればいただきながら、意見交換をさせていただいて、皆さんの中で決めていただくといえますか、考え方をお示しいただいて調整ができればなと思っております。

くどうですけれども、私ども考えている背景とか考えは、今お示ししたのはこういうことが考えられるんじゃないかということでございますので、基本的には皆さんから議論していただかなければならない部分がかかなりありますので、そういうことで今日の会は

お願いをしたいというふうに思っております。

以上、もう少し申し上げたいこともあるんですけども、そこはまた質疑とかやりとりの中でお答えさせていただく場面もあるかと思います。

それから、特に情報公開のあり方あたりで、東京電力さんが本当にどこまで出してくれるのというようなご質問があるかと思います。そういったことにつきましては、電力さん来ておりますので、またお答えをしていただくことにいたしまして、とりあえず私の方からの趣旨のあらましを説明をさせていただきました。きょうはよろしくお願いをいたします。

ということで、これまた大変僭越ですけれども、後は私の方で会を仮に進行させていただきたいなと思いますので、とりあえず私が今申し上げたこととか、あるいはこれ以外で常々疑問に思っておられること、十分ご理解いただけたとは思っていませんけれども、ございましたら項目を特にどれにということで絞りはいたしません、1番何々、2番何々ということではありませんので、随時ご意見をいただいて、またやりとりをさせていただきたいと思います。

桑山

今月に入られて市長さんが記者会見でたしかこの会のことについていろいろと記者の方の質問にお答えになったと思うんです。そのことと、それから今皆さんの方から行政が一応たたき台ということでなされたものとは共通なものでしょうか。中身が多少私には違うような場面もあると思うんですけれども、その辺のさわりはどうでしょうか。

部長

座ったままで申しわけありませんが失礼させていただきます。基本的には同じというふうにご理解いただいてもいいのではないかと思います。若干の違いはあるかと思えますけれども、時間の経過の中で我々も市長の命を受けて事務的にもちょっと検討してきた部分もありますけれども、いわゆる大枠は基本的には変わっておりません。私ども提案したのは市長が申し上げたものと変わっていないとこういう意味ですけれども。

桑山

はい、わかりました。

佐藤

先ほどご説明をいただきましたが、会の目的2本柱というふうにお聞きをいたしましたけれども、これは最終的には再発防止ということが最終目的じゃないんですか。

部長

目的ということになりますと、目的というのは書き方だと思うんですけども、再発防止をしたいと、再発を防ぎたいということで、そのためにこういうことをこの会ではやっていただくという意味で目的ということでタイトルをつけさせていただいたということです。

佐藤

それで、そういうことであると、私も実は団体を代表してここへ出てくるということはほとんど思っていなかったものですから、おまえが出れということと言われた段階から、かなり深刻な受けとめ方を実はしました。いろいろと1週間近く考えました。というのは、非常に再発防止だとか何とかということがついて回るとすると、実は深刻なというか、重

大な任務だなど。とてもじゃないけれども、こっちはそんなことをやれるのかなというふうな認識を実はしながらいろいろ考えをめぐらせながらやってきたと。

それで、まず基本的な考え方として、皆さんそれぞれいろいろといろんな知識、経験抱負な方がたくさんいらっしゃると思うんですけれども、私自身とすると、こういう会が本当に再発防止のために一定の役割を果たすことができるんだろうかというふうに随分考えました。

その大前提となるのは、やはり国、規制当局ですね。国でさえこのことが防止できなかった。東京電力さんがいるのに申しわけないんですが、それほど狡猾に物が進められていったという事実があるわけですから、そういう中でこういうメンバーで、私自身のことを言えば私ごときが出ていって、果たしてそういうものができるのかどうかということを随分と深刻にというか、真剣に受けとめたつもり。

そういう中で、やはりこういう会をまず立ち上げるという、会を立ち上げて、皆さんの立場からすれば国にも、あるいは電力さんにも、あるいはいろいろと上の行政当局にもなかなか物を言っても歯が立たない面もあるだろう。住民の意見も聞きながら物を言えば少し効果があるんじゃないかというふうに前向きに思われたことは評価をするんですけれども、果たしてそれでいいのかなという感じが一つはします。

それで、問題なのはやはり自治体としてまず何をやるのかということなのではないかなというふうに思うんです。というのは、県であり、あるいは柏崎市であり、刈羽村であり、やはり最近言われているのは安全協定等を見直すというような話は一部では聞こえていますけれども、そういうものの他にやはりもっと人的に東京電力さんが怖がるとは言いませんけれども、東京電力さんも多少は緊張するような形の人的補強法というのがまず自治体としてすべきなのではないかなというふうに考えますし、事務方の皆さんとしてこういうものを提案をされ、市長に対して役所ですから下から上がっていくんだと思いますけれども、そういうものを見た場合に、市長、助役のところへ行ったらちょっと待ってくれやと、これだけで済む問題じゃないだろうが。やはり人的にも強化しなければなということになって、初めてその次にこういう会をつくってもらおうということにならないと、私みたくにずぶの素人がいきなり出てきて、そこで果たして再発防止などという大それたことに食いつくことが果たして可能なんだろうかどうかというふうに随分考えさせていただきました。

そういったことから、まずはやはり今回の事件を契機に、福井県なんかでは新潟県よりはるかにそういう体制が整っているという話も聞いたことがあります。実際に見たことはありませんけれども。そういう意味から言っても、そういう自前の自立したものがまず県を初めとした地元自治体に必要なんじゃないかなという感じがしますし、そうでないと市長が外に向かってあつかったよと言って、住民に悪い言葉で言えばいい格好するし、ジェスチャーで終わらんのかやという、こういう感じがするわけです。ですから、そんな意味からいって非常に疑問だなどという感じと同時に、これだけ私ごときでちょっとやり切れないなというそういう思いを持ちながら、きょうの会議に出させていただいたわけです。

部長

ご質問ではないんですけれども、前向きというか、極めて真摯に物事をとらえていただいたということで敬意を表したいと思います。おっしゃるように私の立場で市の体制がど

うなのかということについては、ちょっとこの会とは別に考えていく必要があるだろうというふうに思っています。それこそ柏崎市の中でどれだけ専門的な知識を持った、それこそ佐藤さんの言葉を借りますと、東京電力がびびるような、警戒するようなところまで求められるかどうかというような問題もありますし、なかなかそういった人材あたりも獲得すると、それをまた市で抱えることが一番ベストなんでしょうけれども、そういうことではなくて、必要な部分はまた県なり、国なり、別の専門家、専門知識を持ったそういった人の知恵を借りるということも方法だと思んですが、いずれにしても市としても、もう少しこの問題に前向きに取り組むような体制をとりなさいという指摘でございますので、市としてはそれはお聞きをして、我々としても検討していきたい、頭に入れておきたいというふうに思います。今の段階でこうしますということはちょっとお答えになっておりませんけれども、それはそういうことでご理解をいただきたいなと思います。

県

今ご意見いただきましたけれども、まさに技術的な面で本当に突っ込んだ話というのは難しいと思うんです。安全の確保というのは何と言っても事業をやっている事業者が自主的、自立的にやり、それを規制する立場というのは法に基づいて一元的な権限を持っている国がやるべきだと思っています。ただ、今回の一連の事件を考えれば、そのシステムがうまく機能していかなかった。その事業者、規制する側、これらの機能をうまくさせていくために、どんな新しい枠組みが考えられるのだろうか。そこから今回話が始まっている。その緊張感を高めていくために情報公開を徹底することが有効ではないか。そういう意味では技術的にももちろん知識があれば一番なんだろうが、技術的な面でどうこうというよりはまず地域、住民の皆さんに発電所の運営状況、安全管理の状況というのが本当に透明な形、ガラス張りな形で開かれて、そこで本当に透明性が上がっていけば、事業を運営する事業者の方、東電としても緊張感を持ってやれるのではないかと。そういうことで技術的云々ということは別にして、いろいろな皆さんから参加していただいて、こういう会を持って情報をお互いにオープンにしていく、それが非常に意味があるんじゃないかというのが基本的な考えです。スタートは、土台はそんなことで考えています。

武本

刈羽の守る会の武本ですが、今回の事態、原発が始まってから30年たってこういう事態になった、そして大変だといふところまではいいんですが、行政の今出てきている人たちが果たして責任がある立場かどうかかわからないで言いますから、個人的な発言ではないということを踏まえて言いますけれども、今までは県も市も国を信じなさい、東電を信じなさい、いい施設だからやりましょうと、基本的にこういうスタンスだったと思うんです。それが覆されたというのが今日の事態。それをどうするかはいいんだけど、そういう議論をする前提として、今までの県のやり方、市のやり方に誤りがありましたということがスタートでなければ、実は我々ここへ出てくるのがいいかどうかというのはかなり議論しました。そして、提案された中身見たけれどもこれでは乗れないと。

というのは、安全運転確保のため、そして信頼回復のためみたいなことになっているけれども、その地域の現状を見ればどうなっているかということ、そんなことは全然ない。信頼も何もなし。私たちは最初からなかったという立場です。国も東電もうそつき集団。信頼できないというふうに見てきました。そして、そういう人も一定程度いるという事実が

あるわけ。それがこういう事態になったから一緒になって話をしましょうというのは土台無理がある。そういう意味でこれも含めて議論になるというから出てきたのであって、その関係を一定程度整理しないと、前に行けないんだろうと思うんです。

申しわけないけれども、柏崎市長も刈羽村長も新潟県知事もという言い方をします、担当はともかく。こういう人たちは今の事態に対してこれまで言ってきたことに誤りがありましたとこういうことをまず言って、さあどうしましょうかという話だったら相談に乗ります。しかし、安全運転を確保する会をつくって、信頼回復をするというんだったら、その辺の責任をあいまいにしたまま、みんなどこかが悪かった、一緒になってこれからどうしましょうという前の話があるはずだと。それを一定程度乾かせなければ、我々は参加できないという立場だということをもまず言いたいです。そういう意味で趣旨だとか何かに対してかなり違和感がある。このままでは乗れないということをも、そしてこれも含めて議論する場だということに来ていているということをも立場を表明させてもらいます。

部長

繰り返しになりますけれども、今言ったのはそのこの前提を少し整理をした上でなければ入れないとそういうことですね。

武本

そうです。

池田

一ついいですか。同じような側面もあるんですけども、国も東京電力も、国というのは保安院ですね、今回のトラブルを防げなかったという事実ですよね。相当なことが起こっているわけで、私たち住民の会でも7、8月県の方にも申し入れました。プルサーマルやりたいんだということも言わずと進んできたわけですよ。今、刈羽の方からも意見ありましたけれども、やはりそこら県の方が来ていらっしゃるので、やはりはっきりさせる必要があるというか、させてもらいたいというか、このきょうの会の中に県やそういったのが議論の中に含まれるということではないんですけども、やはりそういう姿勢というようなのはきちんと聞かせてもらいたいというふうに思います。

現に私7、8月申し入れの中で問題ないんだから、村の議会である内容でも安全なんだと。東京電力と行政の区別がないというか、同じことを言っているし、5重の壁があるから大丈夫なんだということに関しては崩れているわけだから、不信があるわけだから、今言われたようにそういうことについてはきちんとこの場では入り口で聞かせてもらいたい。この会とは直接は関係はないんですけども、ちょうど見えていらっしゃるので、県と東京電力あたりには時間をかけなくていいので、ちゃんとした姿勢を聞かせてもらいたい。それが今日こうやって集まっていることに答えることじゃないかと。趣旨にも書いてありますけれども。

県

姿勢というのは。

池田

姿勢というのは、だから基本的なトラブル隠しとかこういう事態が起きている中で、この会との関係でありますよね、そこを聞かせてください。

県



今回のトラブルというか不正があったこと、これを結果として許してしまったということは当然のことながら県としても反省しており、その中で再発防止も含め、今後安全確保される、不正が起こらないようにするには、ということで、県としてもいろいろ、先ほど体制強化という話もありましたけれども、そういうことも含めて検討はしていますし、また国に、あるいは事業者へ直接要請もしておりますし、その中で本当に今まで我々行政だけでは力の足りなかった部分をぜひ住民の皆さんから力を貸していただく中で、よりよい方向に持っていきたいと考えて、今回はこの場に望んでいます。

武本

東電の・・・いいと、東電なんかどうするかというのは基本的に違うんだよね。まずこの中のコンセンサスを得てからしなければ。

皆さんそういう意味では別段聞かなくても今までいろんな陳謝聞いています。

渡辺丈

では、一つ質問します。後ほど説明する資料かと思えますけれども、地域の会に東電さんとして情報提供しますよという項目がありまして、1から8まであるわけです。中には企業としてのマニュアルであり、社内規定であり、それからそういう記録であり、それから品質監査部の記録であり、こういうところまで非常に二重、三重にそういう結果に対して再発防止、不適合報告まで出るような形になっているわけですがけれども、これは従来やってその制度が悪かったものに問題があったのかそこを一つ伺いたいのと、それから先ほど言われましたように、未然防止を我々がかかわるときに、やはりこういう資料を制度は信じて、それを見抜く力、そういうものがなかなか難しい。何々の監査という監査資格を持っていたりそういうところでありまして、それなりにも理解も早いかなと思いますけれども、一般の方々がなかなかそれを見せていただいてもわかりにくい、また見抜けるようなものではないように私は見受けられますけれども、そういうところの世界を代表する東京電力さんでありますので、今後そのようなことのないように取り組みをすると信じたいと思っておりますが、やはりそれを我々が見て果たして評価できるんだろうか、そういうところの心配があります。そんなところの意見があります。以上です。

部長

東電さんの方からその話が出たので、その資料8項目ですか、ここの関係をちょっと説明をしていただけませんか。

東京電力（岩城）

東京電力での岩城でございます。座ったまま説明させていただいてよろしゅうございますか。

まず、今ほどのご質問はこういった情報を提供する。仕組みは従来から全くなくて、新しく公開する仕組みをつくったのかというご質問と、もう一つは1番から8番まであるこういった情報が新しく出てきた情報であるかという2点あるかと思ひまして、その2点を踏まえながらこの資料をご説明させていただきたいと思ひます。

まず、本年9月17日にトラブル隠しの不正事件の全容を解明して報告を、全容解明と言ったら言い過ぎかもしれませんが、これこれでございますということを報告させていただきまして、そのとき当初としての四つの柱としまして、1枚目でございますような四

つの約束をさせていただいたわけでございます。

その中の第1の約束というのが、情報公開を徹底し社外の方の視点を取り入れて、我々の発電所の運営の透明性を高めようということで、今までともすれば自分たちの中で独善に陥っていたようなところがあったかもしれません。そういうことがないように社会の方に見ていただけるように、見ていただくことによって、我々もしっかりと仕事をしていく、それを一つの約束として掲げさせていただいたわけでございます。

また、今般、柏崎市、あるいは自治体の方々よりこういう会の設立のご計画をお聞きいたしました、それであればぜひそういうご計画に乗っからさせていただきたいということで、私どものこの会に対する姿勢といたしましては、できるだけ誠心誠意お答えしていきたい、こんなことを確認したい、こういうところを見たいということがあれば情報提供をさせていただいたり、現場にご案内したり、あるいはご意見をちょうだいすればきちんと意見を反映してまいりたい、あるいは反映できない場合はきちんとご説明をしてまいりたい。そういうことをする中で、私どもの仕事がかちんと透明性が確保でき、仕事がかちんとしていくようになるだろうというふうに考えている次第でございます。

1枚めくっていただきまして、まず情報公開についてでありますけれども、従来私どもの情報提供と申しますのは、いろいろトピックだとか、あるいはトラブル情報などは一度生のデータから対外向けの資料として編集し直したものを公表しているというスタイルでございました。しかしながら、今度はより情報公開を進めるという観点から1番から8番まで述べたような情報を直接の文書を公開するという考えでございます。

具体的にはここに書きましたとおり、まず皆様方の会議の目的、これからご議論になることと思っておりますが、会の目的に従いまして、会の目的に沿った形で私どもとしては我々の発電所の安全運転をご確認いただくために必要な情報はすべて開示していくという方針でこういった情報を出していこうと。すなわち、こういう情報を直接出していこうという取り組みは今までなかったわけでありまして、新しい取り組みでございます。

具体的な内容は簡単にご紹介いたしますと、経営計画、経営情報、それから社内規定やマニュアル、それから発電所の設備や機器にかかわる図書。いわゆる図面類ですね。それから、発電所の最新情報、運転記録だとか、放射線の測定記録だとか、チャート、生データです。それから、定期検査においてさまざまな点検をしておりますが、そのときの報告書や検査記録。それから運転中トラブル報告書。トラブル報告書というのは公表したトラブルが対象ですので、そのトラブル報告書全文。あるいは日々発生しておりますトラブル報告まではいかないレベルの小さな不適合、こういった不適合の報告書。それから、検出監査部の監査報告の内容。それから、皆様方の会から寄せられましたご要望やご提案に対する我々の対応結果です。こういったものを開示していこうということでございます。

この中の1番から6番までは既に従来でも我々の発電所の中にある情報でございます。

7番は今回の事件を受けまして、新たに品質監査部というのを設置いたしまして、その品質監査部、社内ではありますが発電所とは独立した組織です。その品質監査部という独立した組織による監査の報告書。これが今回新しく出てまいりました。8番はこの会ができてからのご意見ということですが、それから、また発電所の現場、あるいは構内をできるだけ可能な限り実際にトラブルが起こったらそのトラブルの現場をごらんになりたいというのであれば、実際そこまでアクセスすることを保障したいと思っております。これも新

しい取り組みでございます。

もう1枚めくっていただきまして、もう少し具体的に申し上げますと、皆様方の会からいろいろなことを確認したい、こういう情報を見たい、そういったご要請が出てこられるかと思いますが、それに対応して以下のように対応させていただきます。この地域の会並びに皆様方には、私どもとして発電所の安全運転をもともと安全ではなかったというご意見もございましたが、発電所がどういうふうに運転しているのかどうか、安全なのかどうか、それを確認いただきたいわけでありまして、それに必要な事項は全部開示するというのが方針でございます。しかもそれは我々が説明用資料としてつくった資料ではなく、社内の文書を開示するということで行ってまいりたいと考えております。また、皆様方が必要だということございましたらば、コピーもお渡ししたいと思います。

ただ、安全を確保する私どもの活動というのは、ほとんどが技術ノウハウであるとか、企業情報に関連しているものでございます。そういったものは、一般に知的財産保護の対象となるものでございますので、そういった情報を含む場合はお互いの保護のためにコピーの使い道について制約を設けさせていただく場合があったり、あるいはその情報がダイレクトに例えば特許のような情報を扱っているような場合には、所有権者の利益の侵害になるような場合は一部をマスキングしたり、概要説明の資料に変えさせていただく場合もございますので、あらかじめ申し添えさせていただきます。

当然また言わずもなごのことでございますが、核物質防護のこととか、核不拡散にかかわるような情報、こういったものは開示できません。

また、公的機関の情報開示の例に習いまして、プライバシーを保護する必要上、個人の情報であるとか、きちんとした意思決定ができるようにするために、意思決定ができるまでのプロセスなどについては非開示とさせていただきます。

また、このノウハウを含んだ技術文書、こういったものはできる限りコピーに制約がついたりするかもしれませんが、できるだけ開示するようにする考えでございますが、そのノウハウの知的所有権者の方からの開示同意が得られなかった場合には開示できないということもございます。もちろん最大限開示できるようにその方々に働きかけてまいりますが、そういう場合もあるかと思われま。

また、現場へのアクセスにつきましては、できる限りの場所にご案内させていただく所存でございますが、やはり人身安全とか、放射線被曝の問題があるような場合は制限させていただいたりする場合がございます。

また、トラブルが起こって最初第一報を出すまでの間は、これは非常に緊張した緊急の連絡を取り合いながら緊急判断をしていくプロセス、そういったところではそういった正しい緊急対応ができるように、そのアクセスを制限させていただく場合もございます。

また、ごらんになって発電所の中を自由に歩いていただいた中で、例えば核不拡散に関する情報なんかが見えた場合には、守秘義務を負っていただくことも要請しなければならぬ部分、ちょっといろいろ制約のようなことも申し上げましたが、私どもとしては思い切った情報公開をして、それによって私ども自身の仕事を正していこうと。ぜひごらんになっていただき、ご意見を賜っていきたいという、そういう考えでございます。

部長

ちょっと具体的だった、次の段階に入るような話だったんですけれども、その前にご質

問の趣旨はそうなったときにその専門性もないのにどういうふうに判断できるのかと。ある意味では最初の佐藤さんのご発言とも通ずるところがあったわけですがけれども、そういうことをこの会議、どういうふうにはそこをどうすればいいのかというのも実はこの会で議論していただければありがたいんです。

例えば、そういったものを解析するために、具体的にそういった知識をお持ちの専門家といいますが、の方に来て、一緒に講義を受けるとか、そうしながら理解を深めていただくということだと思えますけれども、そういうことをちょっと次の段階では皆さんから具体的に議論していただければいいなというふうに思っています。

今の東電さんの説明はこういうところを情報公開をしたいということなわけです。そこを信用できるかどうかということだと思えますけれども、柏崎市としまして先ほど武本さんおっしゃいましたように、今までそう言いながら電力なり国を信頼しながら言葉悪いんですけれども、その言いなりになってやってきたところがやはり反省すべきではないかというようなご指摘がありました。池田さんからもそういう趣旨の行政の責任はどうかというようなこともあるわけですが、そこらは私担当とすれば、一番の根底は原子力発電がやはり安全であるという神話といいますが、過信といいますが、そこがそのことが大きな原因であったのではないかと。そういう前提に立って物事を進めてきたというのが電力であり、国であり、それを信用した私どもの責任ではある。そこを見抜けなかったり、いろんな事故とか、トラブルとかの教訓をここまで生かしてこれなかったというのは、そういうのはある意味では柏崎市で言えば市は何をしたんだと、信用するばかりだったじゃないかと。そういう人員もそろえない、知識もない、勉強もしない、言いなりになってきたんじゃないかというようなことは、率直にやはり担当とすれば身につまされる思いということで非常に残念といいますが、反省もしているところであります。

そういうことはないように、我々としても努めたいと思いますし、今回のこれもある意味では我々だけではできない、行政だけではできない部分を肩代わりしてもらおうようなこともあって、そこは非常にじくじたるものがあるわけですがけれども、むしろこういったら何ですがけれども、直接専門的でない市民の皆さんが目光らせているということは、次のと言いますが、今までにないステップとして、ある意味では効果があるのではないかなというふうにも思っております。どれだけの効果があって、これがベストかと言われるとそうじゃないと思えますけれども、我々としてはそういう反省も踏まえましてちょっと検討してきている経過であります。そこらはちょっとまたご批判をいただきながら、我々としても対応していきたいなと思っております。

今、渡辺さんでしたか、今ほどの説明ちょっとわかりにくかった部分もあるかと思えますけれども、そういうことでそこをではどういうふうに理解をしていただくのかが、まさにこの準備会が進むとすれば議論していただきたい部分だと思うんです。

渡辺丈

もう一度確認させていただきたいんですが、先ほど6番までは従来ありましたということとして、7番の品質監査部がこのたび新設されたというようなふうに聞こえたんですけれども、この品質監査部はその運転に関するところの監査というのは年何回実施するんでしょうか。

東京電力

これは年何回と言いますよりも、発電所に常駐しております組織でございます、必要に応じて常時事務所の中、あるいは現場の仕事を監視しながら監査をしていこうとそういう組織でございます。いわゆる外から監査のチームが来て、それで書類やエビデンス（不適合の客観的証拠）に基づいて行うああいう監査、ああいう形の監査だけではございません。

渡辺丈

いずれにしても内部監査ですよ。

東京電力

内部監査です。

渡辺丈

内部監査で普通でありますよこの部署は年2回ありますよとか、こういうふうに内定で決まるはずなんですよ。それが一つと、それはいいとしまして、我々がこういう開示をいただきました、まずその6番のトラブルがありました報告書、あるいは不適合の報告書、これをやったかやらないかという判断しかできないんですね。それが正しいかどうかは別にしましても。ただ、そこまで出していただけるというような意識でありますので、それはもちろんやることだろうと私は思いますけれども、もしこれが本当にスタートして、もしかかわるとすれば、この6番ぐらいのところではないかと私は思っています。

佐藤

ちょっといいですか。品田さんが今いろいろと反省しなければならない点もあるし、いろいろあるというふうにおっしゃった後で、こういうように言うのまずいんですが、実は最近17日に市長が経済産業大臣に要望書を出したその最後の1節があったら穴があったら入りたいような文書になっているので、今のこの時点でこれは何だというふうに言いたいところがあるんです。

それは原子力発電は近代化学技術の最高水準を累積した人類の英知の結晶とも言える最高作品の一つである。何を言っているんだと言うんです、これ。廃棄物はやり場がなくて困っている。東京電力に言わせれば使用済み燃料のやり場がなくてどうしようかと言っている。そして、原発の電気がなくなっても、まだ廃棄物が残ったのを将来の人たちが始末していかなければならんと言っているのに、何を最高作品なんだと。最高水準の累積した人類の英知の結晶って何をたわけているんだということをもまずは言いたいの、こういう認識で立った上で何で再発防止があったり、何かそういう姿勢に立てるんですかということをおはきょう本当に強く言いたいです。穴があったら私入りたいですよ、こんなの。柏崎の市長がこんなことを言っているんですから。そういう認識がまずは問題だと思うんだ。

ここにいらっしゃる皆さんだって大半はまあ言ってみればもっと言わせてもらえば、市長と村長と知事で3人でもって、もうプルサーマルはやろうと言って決めていたというんでしょう。それさえ止めざるを得なかったような状況に追い込まれていて、それで何が最高作品の一つですなんていうことが言えるんですか。こういう姿勢がわからないんだ、悪いけど。きょうは本当は市長に言いたかったんだけど市長が見えないから。ちょっと常識では考えられないんだよ。皆さん、どう思われますか。煮え湯を飲まされたのに最高作品ですなんてしゃあしゃあと言う、その神経ですよ。

## 桑山

今のことと直接には関係ないかと思いますが、多分この会ができて、この会には特別な権限は持たせられないのではないかと私は思います。

それで、今ここに集まっているメンバーの方、私初めてお顔を合わせる方がいるんですけども、市長はこの前のときに地域振興とかそういうものを離れて、今こういう機会に住民の皆さんからのこういう会を立ち上げるのはいい時期ではないかと、この機会を外したら困るし、これを東電さん入れないで一応住民ということでもって地域の会として立ち上げることに意義があるんだとこうおっしゃったときに、将来はNPO的な熟した段階ですけれども、すぐなんかそんなになりませんけれども、そういったものに持っていきたいと。しかもそれは30年とか40年先を見越しているところおっしゃるんですよ。

そうしますと、私は今度この見出しと考えて安全運転のための地域の会、安全運転、じゃあ原子力はだあっと続いていくということで、私はその前にやはり今のエネルギーについてそれぞれがみんなここへ集まった人でもいいんですけども出し合った段階で、この今度安全を見守るため、あるいは監視するための準備会をつくって、そこで十分な話し合いをして、こういう会が一番今の柏崎では住民の命を守るためには大事だということになって、初めてこの会が発足するんだろうと思うんです。

ところが、私ちょっと市長さんのお話を聞きますと、もう年度内にこの地域の会を立ち上げたいところおっしゃるんですよ。私はお金をもらうとか、もらわないではなくて、準備会で十分に何回も何かもやって話し合って前へ進めていただきたいと思うんです。そして、やはり私たちは今まで一応プルサーマルとか反対しておりましたんですけども、地域の振興ということを随分おっしゃる方に私はいつも会いました。あなたたちはただ反対さえしていればいいんだけれどもというふうなことをおっしゃいました。私たちも何も勉強しないでただ反対しているだけでもないんですけども、そういうことをいつも言われて、もう本当のテーブルについて柏崎の住民のこと、柏崎のことを考えて話し合おうなんて機会なかったんです。だから、私はこの会が少なくとも立場も目的も違って、柏崎の住民のために安全が守られるような会になっていくということであれば、あえてその会を立ち上げることに反対なんかはいたしませんけれども、そういう会になっていくのかどうか。もう東電さんがやっていくんだから、30年、40年も柏崎がここにあって、そのために私たちが監視するまねをしていけばいいぐらいだったら、私はやはりそれには反対なんです、そこら辺ははっきりわからないんですよ、この会自身が。

## 部長

法律的な議論だと思うんですけども、私、桑山さんの意見をもう少し不偏をして私なりに解釈して言えば、要するに電子力発電所そのものも一応認めないという、そういうことまでさかのぼってこういう場で議論をしていくのかという、してもらいたいというお気持ち多分あると思うんですけども、今ここではそこまでさかのぼった議論はちょっと私どもとしてはできないなというふうに思っているわけです。現実に発電所ありますので、ただ今回も含めてこういうことになったわけで、こういうことがもう再び起こっては困るわけです。これはその部分は共通したことだと思うんですけども、そのためにじゃあ今言ったように何をすればいいかということの中で、まずそれがベストな方法ではないでしょうけれども、民間の皆さんを含めて、地域で監視をしていくということが一定

の緊張感を持たせることになって、見張りという効果はそれなりにあるんじゃないかというのが私どもが考えて提案をさせていただいたわけですね。

じゃあ、それがどこまでの権限を持つのかということになると、我々とすればおざなりで定期的に年4回なら4回集まって、聞きました、はい、わかりましたという話にはしたくないわけです。それをどういうふうに担保していくかということは、まさに議論の本質だと思いますし、我々も我々なりに、事務方なりに考えますし、皆さんから議論していただいて、こうすればいいんじゃないのというご意見をいただければありがたいというふうに思います。

決して作って終わりというような会にはしたくないということで、いろんな意見の方にお集まりをいただいて、お考えをいただければありがたいということでございますので、それはそういう前提だということをご理解をいただきたいと思うんですけれども。

武本

前提って何かその批判的な人ばかり話しているような感じであれなんだけれども、では事実関係として現状を見たときに、8月10日に3号機が停まって、その後9月に二つ停まって、年度末にはみんな停まるというような状況があるわけ。そういう中でこういうところで一定な議論をして、傷のまま動かすために、市民あるいは地域の各階各層の意見を聞きましたみたいな飾りになるんじゃないかという心配があるわけです。

これまで、東京電力が言っていたのは、原発はすごく立派なもので、せいぜい30日ぐらいの点検をすれば運転ができるんだという、それで他の電源に比べて非常に割安でという宣伝があったわけ。ところが、今日の事態を見れば、いつまでとまるかわからないような事実が片一方に出てきたわけです。そういうことが今の品田さんの話では、審議の対象から外れるようにも受け取れるわけです。原発本当にどうなるんだかというのは、当然地域の大きな課題だと思うんです。そういうことがそれはともかくとして、安全運転のためになることで最初からたがをはめられるとすれば、これはもう一体この会議は何なんだという思いがあって、私はそれぞれここへ出てきている人が現状に対してそれぞれのかかわりがあったわけですから、そういう中で地域をどうしていく、そのためにこの会にどれくらいまでだったらかかわれるとか、私はさっき言ったようにみんなとまる、それを動かすための格好をつけるための会議であるならば参加できないということをさっき言いました。そこらの見通しが無いまま、東電何を考えているんですかと言えばとくとくと説明をする。こういう場であれば、これは最初から話になんかならないのではないかと。そういう意味で内部的に行政も含めてどこまでだったら歩み寄れるんだ、あるいはどこまでだったら皆さんが許容できるんだ、こういう話が準備会の中で十分あって、その後じゃあどうなるという話になるんだろうと思うんです。そうでないと、かなりやり方、議事進行についてですが、時間かけても堂々めぐりするような気がしますので、私はさっき言ったように、私の周辺にはそんなところに行くなと、どうせ格好つけるために、市長が格好つけるために、村長が格好つけるために言っているの、そして東電に利用される場だから参加すべきではないという意見がかなりあります。そういう中でそうは言っても、現実には原発があって、これに対して一定のかかわりをお互いにしなければならぬという立場だろうから、そこらがどうなっているのかということ聞きに来たこういう立場なんです。ですから、趣旨とか前提みたいなところを一定程度整理してもらった上で次の段階の話にしないと、何か

それが嫌だよみたいなことしか言いませんからそれでは困るんですね。

部長

桑山さんもちょっとご発言になったように、どこまでこの立ち上がった会が権限を持つのかという部分というのはかなり難しいと思うんです。さっき、渡辺さんがいわれたように、そういつては悪いけれども専門的な知識もないわけです、私も含めてですけどもなわけなんで、じゃあそこを出された資料をもう運転こうなっていますから安全なんですと言われたときにどう判断するのといったときに、かなりそれは難しいと思うんです。そういった責任までちょっとこの会に持たせるのはややいかなものかと。もっと端的に言うと、動きとれませんか、どこかにひびがあるからやばいからとめろというような権限を例えばこの会が持つのか、持たないのかですよね。皆さんいろいろ意見あると思いますけれども、私はそこまでの権限というのはやはりちょっとこの会としては持てないのではないかなというふうに感じているんですけども、これはまた皆さんのご意見もあると思うんですけども、そうなったときに責任も当然伴うわけですので、だれがどういう形で責任を持ちながらそういうふうにとめろということを行うのかというのはちょっと難しい議論だと思うんですが、武本さんおっしゃることはご心配としては非常によくわかります。わかりますけれども、また東電さんから補足があれば答えていただきますが、できれば我々とすれば言いつ放し、聞きつ放し、言われつ放し、聞かれつ放しということにはしたくないなと。そこがどこで今言ったように権限と責任とかの関係で整理できるのかというのは、少し前提としてこの場で話をする必要はあるだろうというふうに思う。だから、こうしなさいということで私はちょっと申し上げているつもりはないんですけども。

中林

中林でございます。座ったままですみません。今お話をお聞きしてまして本当に申しわけない気持ちでいっぱいなんですございますが、こういう会を私どもが利用するということではなくて、私どもとしては、原子力部門の情報公開を徹底的にやりまして、それから社外の方、皆さん方のいろんな視点を取り入れた中での事業運営をしていきたいという新たな気持ちになっているわけございまして、いわば発電所の運営の透明性を高めたいということでございます。

さっき桑山さんがおっしゃったように、何か権限を持たれたり、あるいは意思決定をされたりするような場ではなくて、私どもに対していろんなご意見とか提言をいただきまして、私どもがそれを一つずつ反映できるかどうか判断しなければいけません、ちゃんと説明責任を果たしながら、事業運営に反映をしていくという、そういう位置づけを持っていただければというふうに思っているところでございます。

私どもとしては正確でわかりやすい情報を公開していきたいと思っておりますし、それからちょうだいいたしましたご意見には真摯に耳を傾けるといいますか、受けとめまして事業運営に反映すべきものはしっかり反映していきたいという姿勢でありますので、何とか余分な仕事みたいなことで大変申しわけない気持ちなんです、ぜひ我々の透明性をしっかり保つための目的を持った会というふうにとらえてもらえば有り難いというのが率直なところです。

佐藤

具体的な話は実はしなくなかったんですけども、東京電力さんのここにあるのに2ペ



ージ目の8、発電所地域情報会議に提出されたご要望はと言っ、この会はというふうに言い直しておられたんですけども、発電所地域情報会議なんてどこにあるんですか。これは東京でつくった文書なんですか。

東電

これは違います。ちょっとこのガードが古かったものですから、前に新聞やなんかで発電所地域情報会議とかという言葉があったものですから、我々社内でそんなふうに使っていたものですから申しわけございません。訂正させていただきます。

佐藤

いや、そういう問題じゃなくて、自分たちが言い出したらとくにかく自分たちの主張を最後までなし続けると。だから、きょうこの会はもう既に市の方と話がついていたかどうかは知らないけれども、話を聞いていれば、こういう会だということがわかっていて、わざわざ新聞で発表したものを最後までこだわりながらこういうものをつけて出してくるとい、その皆さんの姿勢だとかが、今までからの、そういうものが体質的には全く改まっていないということ。だから、そういう点で本社に向けて地域情報会議という資料を出したとか、出さんとか、そういうメンツまで考えてやっているんじゃないかと私は勘ぐりたいわけ。皆さんというのは確かにいろいろと柔らかくいろんなこと言ってくださるけれども、守るところだけは絶対に譲らないんだから。何でこんなところで地域情報会議が出てくるんですか。おれは本当はこんな具体的な話なんかはしたくなかったの。したくなかったけれども、これは異常ですよ、こんなの出てくるのは。

東電

申しわけありません。

佐藤

申しわけありませんとか何とかという問題ではなくてこんな異常ですよ、こんなところでこんな会議がどこであるのか知らないけれども。

本当は具体的な話はしたくなかったんです。全体的な話をしても。ちょっとやはりついでなんで話をしておきたいと思うのは、この会ができたとしたら、行政の一種の追認機関にされるんじゃないかというような感じをやはり疑念として持つんです。というのは、あるいはこの会は行政の意思決定によって誘導されたり、制約されたりするのではないかというようなことが非常に危惧されるわけ。それから、希望的観測で持って事をリードされたりするのではないかという感じもある。

例えばの話、記者会見で反対側の皆さんも説得していますなんて話が市長が記者会見で早々にぶちあけるわけ。ところが、私は一遍も説得された覚えなんか無いのに、そういうのが自分の都合によって記者会見で述べられると。記者の皆さんは何も知らないから説得するというふうになんか新聞に出たりするわけ。そういうことというのは、いろいろと最近あの人の特に個性なものも知れないけれども、市長は特にそういうことを利用したり、自分が真っ先に決まっていなことをぱっぱと発表したりというようなことがあるかに聞いていますし、そういうものとして利用されるようなことであってはならんというふうになんか非常に危惧をしている。

それから、東京電力に対しても、特定の方に、あの人にだけは事前に説明しておけば会が我々の意思のもとに進むなと思ったら、理解活動と称して適当に選んだ人たちにご親交

に預かるというようなことを従来はやってきたわけ、市議会でも。反対派の人たちには言わないけれども、賛成派の人たちには訪問して説明をするとか。夕マさんが議会でもってそういうことは今後しませんと言ったけれども、またその後やっていたわけだ。そういうことも非常に心配というか、常に疑念を持っているというか、そういうことです。

それから、この会があるんですから、皆さんと今後個別に話し合いするのはお断りしますというようなことになりはしないかという感じも非常に強く感じています。それは本当は具体的な話ですから、やるとか、やらんとかという方向が決まってからそういうことを申し上げようかなと思ったんですが、そういう疑念というのは冒頭に言っておいた方がいいのかなと思って今改めてたまたま東京電力の資料のこともあったから申し上げるんですけれども。

部長

二つ目と三つ目については東電からコメントがあればさせていただきますが、1番目の行政が利用するという話は、ちょっと我々としてはないんですよ。市長は説得ってどういうことだったのか、この会に出てくださいということをお願いしているということそういうふうに表現しているのかどうかというのはわかりませんが、我々としてはこの会を行政のこの会でこうなったんじゃないのということは、そういう考えというのは全然持っていないんですよ。だから、この会はさっき言ったかもしれませんが、意思決定で結論を1本にするという会ではある必要がないと思うんです。いろんな意見があって、整理ができないということであって、この会の性格上あってもいいと思いますし、もう一つは桑山さんがさっき将来NPOという話がありましたけれども、NPOという言葉がいいのかどうかは別にしまして、行政が招集してやる会に出ないような、本当は会議そのものの中で運営委員みたいなのができて、そういうふうに運営されればいいのではないかなというのがNPO的な将来の運営方法としては望ましいというような考えを持っている組長さんもいらっしゃるわけですので、できればもしそういう疑念があるとすれば、そういうふうな運営方法を将来はしていくように、立ち上げはともかくとしていただくように、また皆さんで考えていただければいいのではないかなというふうに思いますけれども。

東電さん、何かありましたら。

東京電力

皆さんおっしゃった、この会に説明をしたことによって、他のそういった手を抜くような話、これは一切考えておりませんし、今まで、最近の私どもと皆さん方の対応ですとか、あるいは今の説明でいろいろ全戸を回っていますけれども、そういったことについては全く変えるつもりはなくて、これはこれ、今までのやってきていることによる説明、個別にお会いして説明していることについては、それを変えるつもりは全くないので、そのところをご理解賜りたいと思います。

内藤

今、聞いていますとやはり佐藤さん、あるいは武本さんから入り口論争なんですね。だから、私はこの会やるということで賛同して出席されたものばかり思っていたので、その辺がクリアしていないんだとすれば、当局の方でもきちんと理解してもらおうような努力をしてもらいたいと思いますし、それから市長の発言とか、市長の態度とかということをご

ここに市長いないのにこれどうしようもないから、これはしかるべきそういう市長や村長からも必要であれば出てきてもらって、この会を理解する市長や村長の重みとか、何故作るのかということ、きちんとやはり説明してもらわないといけないのではないかなという、お二人に発言を聞いてそして今そう思いましたし、それから東電から情報提供として8項目の細かい資料を出してくれるということですが、例えばこういうことだって、これは桑山さんのおっしゃるの私も同じなんですけれども、私自身も別に経済のことは多少わかりますけれども、こういう原子力工学だとか、物理学とかという方の中学生のレベルだったらわかるにしても、高度なものはさっぱりわからんし、資料だけ出されたってこれ理解する、読みこなす能力なんかないわけですから、それはじゃあどういう方法でこれを理解するかというのはこれはまた別の問題とはおっしゃっていますけれども、じゃあどうすればいいのかということも含めて、本当の地域の会に参加する方々の人選とか、それからその方々のこの問題に対する基本的な考えとかというのを協議して進めていかないと、この会いつまでたっても入り口からさっぱり中に玄関に入らないような気がするものですから、私としてもこれはぜひやりたいと思うし、やってもらいたいと思うし、それから私どもはどちらかというと地域振興とか商工会議所の立場ですと、技術的な安全というのはやはり国を信頼し東電を信頼してきた。それは裏切られたことで皆さんと同じ、そんな腹立たしい思いでいることも事実でありますのでそれはそれとして、地域振興の立場からやってきたわけなんです、やはりそればかりじゃないんだな。基本的なここにいるからには、ここに住んでいるからには、技術的な安全にも真にやはり一人一人ができるだけやはり勉強をして、知識を深めて、ごまかせでないそういう姿勢というのはやはり市民として重要なのかなという気がしますので、そんなことも含めているんな意見具申をこれからこの会で、この・・・が必ずしもなるわけではありませんけれども、組織としてもきちんとしていかなければならないなという気でおりますので、お二人から言われた入り口論争はきちんと整理をした上でとにかく進めていただきたいというふうに思います。

宮崎

今のお話の中にこの会発足に当たって理解して参加されているというお話だったんですけれども、私どもとしてはそういうのではなくて一体何ができるのかと、先ほどの論議のとおりでそういう心配を持っています。

それで、さっきも武本さんから出ましたけれども、本当にこの場が今停止されている原発の再開の何かいいセレモニーになるような、に使われるのではないかとこののをすごく心配してしまして、そういう場だったらとてもじゃないな、やはりできないな。

でも、何か資料を提供する。それも先ほど東電さんからは大分社内のそういう技術的な情報提供という話ありましたけれども、私ら柏崎に住んでいる者とすれば、前から活断層問題というのがありまして、活断層なんていうことになりましたと東電さんは地滑り断層だとか、学者の先生方はそうじゃない、相当危険なものだ。この結論の出方によってはそれこそ立地が許されないという問題にまでつながってくるわけです。私たちはそういうことも、もしこういう場で私たちは聞きたいんだということで専門家の方を呼んで学習会になるのかどうか、それをいろいろと市民の方に聞いてもらえる場を提供できるような会であれば、そういうこと私たちの聞きたい、住民の方の聞きたいことをどんどん提供して、それを賛成・反対、あるいは甲乙いろいろある意見をここを通じて市民に提供する機会をつ

くっていくというようなもしことであれば、これは役に立つ会だなというように思っていましたので、どうなるのか初めから引かれた線があってということでは来ていませんのでその辺です。一番私が心配なのは、停止された原発が再開するために私らが意見を求められるのかなというのが本当に心配なんです。

部長

今お二人からちょっと意見ありましたけれども、それこそこの問題に関してメンバー見ていただくとおりの方に集まってもらっているわけです。全く正反対の意見をお持ちの方といたしますか、こういう考えとこういう考えと全く別の考えだってあるわけですので、内藤さんも言われたように、これ全部準備会で参加すると、あるいは次の会に参加するという、そういう意思表示を実はもらっていません。そこは詰めていないと言えないんですけれども、こういうのをやるんですよと、こういう目的でこういうのをやるんですよというのをやはりまず理解をしてもらった上で、ではその次にどういうふうにそれを運営していけば、つくってあげたいのかというのを、この準備会でやはり固めてもらいたいというか、議論してもらいたいというのが私どもの立場でして、最初からというか、佐藤さんの口火を皮切りに武本さんあたりからその前提どうなっているんだというあたりは当然出るというか、そういうことから入っていくんだらうなというのを理解していましたので、特にレジュメも例えば会がどうするんだとかそういうところまでは今日は入れないだらうというふうに最初に申し上げたわけです。

その部分がどれだけ時間をかけてどういう説明をして、私じゃ足りない、市長が出てくる、知事までとはいきませんが村長も出てくるという話があれば納得していただけるのかというのは、また今後それは検討させていただきたいと思っておりますけれども、私らはできればこういういろんな意見を持った方が集まって、この問題に関して一同に会してやるのは、恐らく市議会ぐらいしかないんだらうなとこう思っていますので、あるいは民間の皆さん、市民の皆さんでこういう場はないと思っておりますので、私はやはりいろんな意見を持った方が参加をして、自分たちで作りながら、この会を持っていていただきたいというのは担当としてすごくまじめな気持ちで思っているわけです。

それで、宮崎さんがおっしゃったように、そういう何とかの立ち上げのためじゃないのと、アリバイづくりじゃないのということは、少なくとも東電さんもそうだと思いますし、我々はそういう気持ちは全然持っていないわけですし、それはまた別のところで議論すべきだらうと。たまたま最後におっしゃいましたように、わからんからちょっと専門家呼んで勉強会しよう、それをまた市民に伝えようというのは、さっき私が申し上げたとおりのことです。まさにそういう会にこの会がなれば良いなというふうには思っていますので、ぜひそういう方向でご理解をしていただいて、また議論に加わっていただきたいんです。最初から参加ありきということでは来ていないというのは十分承知をして、そういう方が何人かいらっしゃるというのは十分承知しています。それはそれで聞いていただいた上で、これではいいじゃないかと、あるいはここをこうすれば俺達としても参加していいということがあれば、そういうふうに前向きにとらえていただければ、我々としては非常にうれしいんですけれども。

県

まさに今、部長がおっしゃられたとおりで、要するに住民の皆さんにいろいろと不安、

疑念があるわけです。今回の不正事件だけに限らず。そういうものを本当にオープンに議論する場を何とかつくり上げていきたいということで今回考えているわけですし、先ほどちょっとお話ありましたけれども、ある意味行政側で枠組みつくってしまって、それに賛同できる方だけ入ってくださいというのはそれは楽は楽なんですけれども、今回そういうことを目指しているわけではなくて、まさに準備の段階、つくり上げていく課程が非常に大事だと思うんです。本当に住民の皆さんが不安に思っている、疑念に思っているところを、きちんと話ができる場をどうやったらつくり上げられるんだろうかと。その入り口のところで本当に時間がかかるかもしれません。それは、皆さん本当に忙しい中をお手数かけることになるかと思うんですが、そここのところを今回はぜひ十分じっくりとやっていきたいと考えているので、そこはぜひこだわりなくご議論いただければと思います。

桑山

私ども市民ネットというのは皆さんもご存じのように超党派のさまざまな人間がおります。ですから、初め私行政の方からお話があったとき、私だけが聞いても何もならないということで、ご面倒いただいて、わざわざお出かけいただいて皆さんで4人でお話を伺いました。それから、またその結果についてまた15日にみんな集まっていたいただいてそれぞれで話し合いしました。中には、やはり準備会にも出るべきでないというのもありましたし、それから準備会出たってまた2度目の準備会で出られないかもわからないというのもありましたし、最終的にはその会の立ち上げまでしっかりと話し合いをして、もうそんな推進とか、反対とかそういうことじゃなくて、柏崎のことを思っている市民がそこにできるだけ参加して、例えばこういう20人とか、30人ぐらいかな、そこら規模もちょっとわからないがというようなお話だったんですけれども、私はもうちょっとたくさんの人たちが集まってというふうなそういう意見も出ました。差し当たって1回目の準備会は行って聞いてこようというふうなことぐらいで私は出席させてもらったわけです。そのとき細かいことですが、きょうの話には載っていないと思うんですけれども、医師歯科医師の会の方なんか、もちろんこれは安全ということですし、監視ですから防災の方は関係ないんですけれども、でもやはり住民が不安がっている命の問題ということになると、そういう人たちもぜひ参加させてもらいたい、そういう会ができたときに、そういう要望もありました。

それから、私みたいなのところに4人ぐらいが電話かけてきて、中立の立場でいいんだから、市民ネットの中で出させてくれないかなんて、私が出したり出させたりするわけじゃなくて、行政の方から各団体に1人ぐらいということでお話があったので行ってくるんだからと言って、じゃあ公募があるんだねというふうな意見も3件ぐらい来ました。じゃあ、その公募のときに参加しようって。公募だって出たってまた向こうに審査されるんだからだめなのかなと思ったり、もう住民の意見を聞くということでものすごくはりきって来ている。その人が今までの動きとか余りわからなくても、やはりこの時点で何とか柏崎をしなければならぬという意気込みだけは私それ感じられまして、何か説明してあげるのも私ごときでは力不足だけど、とにかくまあ行ってくるんだと。この経過をまたよく見ててくださいというお答えをするよりしようがなかったんですけれども、非常に市民は関心を持っています。

ですから、これは今日のお話し合いにもないんですけれども、この地域の会の中に住民

が自由に物を申せる、受け付けをしていただける、声を聞いていただける部署をその組織の中にも必ずつくってほしいというようなのもありました。とにかくいろいろ全部市民ネットの人たちは違うといえば違うんです。

だけれども、例えば今までのようにプルサーマルとめたいということで1点にまとまったということであって、そんなのですので、代表の方が出てきていただいて、その代表の方が言うことがみんなにちゃんと浸透して、年度の初めに目標決めて動いているという組織の方と私も違いますので、ちょっと参考までにというか申しました。

部長

ありがとうございます。ご意見またちょっと検討してみたいと思います。

何かまだご発言のない方含めてどなたでもいいんですけども、いかがでしょうか。武本さんさっき入り口、さっき基本的な姿勢ということでおっしゃったわけですけども、今までのやりとりを聞いていても、まだ十分払拭されないというのはあると思うんですけども。

武本

趣旨が書いてありますよね。その趣旨に関してもう違和感があるわけです。例えば、国が一元管理すればいい。今機構としてそうなっているということは事実としてわかります。しかし、それが機能しなかったときに、そのままいいかというのは当然この議論の対象になるんだろうと。それは可能かどうかは別として、そういうことを前もって排除するような表現はやめてもらいたいということがありますね。

それから、安全運転を確保するための会という名称になっていますが、今の議論の中で原発を監視する会とか、安全を確保する会とかそういうふうにしなれば、さっきの話にも関係して、少なくとも批判的な立場の人はかかわれる余地がなくなるということ。

そして、恐らく一定の段階までは行政とその住民とが、あるいは今、招待されたというか、選定された委員が個々に東京電力の意向を代弁することはあったとしても、その中で少なくとも会の性格だとか何かを整理してもらいたい。言ってみれば、言葉は適切かどうかわかりませんが、今回の不正事件が契機になってできた会であるならば、東京電力は被告席に座るような会だと思うんです。そういうものを同列にして、東京電力様でという話をしながら会議を進めるのは基本的におかしいです。そういう意味で、まずこういう地域の会をつくるのであれば、その性格の議論を皆さんが選任したきょうのメンバーの中で一定程度乾かしてもらいたい。そして、どこまでの範囲だったら対象になる。あるいはそれをどの程度のコンセンサスが得られれば対象にするというようなルールを確立した以降、スタートをする必要があるだろうと。何かそうでなければそれこそひどいですが、30年間東京電力とつき合ってきました。そして、地元で旗振りをしている人たちとも議論してきました。こういう中で今日の事態に対して東京電力はどんな顔をするんだろうと。あるいは東京電力を信じようと言って旗振りをしていった人たちがどんな顔をしてここへ出てくるんだかというのは非常に興味がありました。しかし、そうは言ってもここに住んでいるという、この地域と一緒に住んでいるというのは一つの事実ですから、その中でまず乾かせて、乾かせてというのは一定の整理をした後、具体的な話に行ってもらいたい。私は趣旨についても基本的なところで、やはりみんながそれだったらちゃんとみんなして議論しようというような話でないと、このままであれば再開のための会というよう

な不安が残って、なかなか入り口の階段は高いなという思いがあるんです。ただ、今までなかったそういうものをつくらなければならないところまで、行政も追い詰められているという実態はわかりますから、その何らかの形でそういう人たちも含めて参加できるような形にすべきだろうということはあるんですがこのままではかなり抵抗がある。これだったら参加できないというようなことも踏まえて、私はそんな整理がしてもらえないか、あるいはそれが今日なのかどうかわかりませんが、入り口の段階で整理してもらいたいという思いがあります。

部長

ここはぜひ具体的な提案をむしろいただきたいと思うんです。

武本

だから安全運転を確保する会という安全運転だというのは当たり前のことであって、東京電力を監視する会とか、そういうような性格の会なんだろう。その方がみんなが批判的な人も含めて信用されるだろうということ。

それから、もう国が一元管理をするんだということは、現実はそのだということがあるんだけれども、それがいろいろ問題があったということ踏まえるならば、それも含めて議論の対象にするようなものであってしかるべきだろうし、信頼していたということを前提にしていますが、少なくとも信頼していたというのは私の言葉で言う推進派の人と行政までですよ。多くの方は行政を信頼していたかもしれないけれども、東京電力を信頼していたわけじゃないと思います。それから、最初から信頼できないという人は一定の割合でいたわけですから、そういうことからここの表現についても、地域のコンセンサスを得るのであれば、再考をしなければならないだろうと。みんなに信頼がなくなったということだけ書いておけばそれでいいんじゃないかという思いなんです。

部長

今回こんなの全くたたき台で、ある意味本当に白紙の状態からぜひやってもらいたいと思うんです。これは何も無いところで議論したって話できないですから、とりあえずたたき台としてはお示ししていますけれども、そういう意味では武本さんが言われたようにもう全然だめだということになるかもしれないんですけども、そこは本当にそのところから。

武本

ですから、この趣旨についてもいろいろ議論していいんでしょうねと。そうだったらそういう議論をした上でどうするかとか、東京電力はどこまで出すかというのはそれは二度一度にした方が効率的だというのはわかるけれども、その議論の前に入り口の議論が必要なんだろうということを言っているつもりなんです。

部長

その仮に議事としたら、会の趣旨・目的があつたりが実は話題といいますか、テーマとして今おっしゃっていることだと思うんです。この東京電力たまたま被告席という言葉は悪いが、私と同じ言葉を使ったんですよ、武本さんは。私はこれを聞いたときに、あなた方は向こう側だよと。要するに一言もしゃべらないぐらいの立場でいなければならないところというきついことも最初のころ、この話があったところに申し上げたこともあるので、例えば今そういうふうに東京電力さんそういう位置づけにしようじゃないかということであれ

ば、そういうことになれば、それも一つの考え方だと思いますし、もう一つはその前に言われた、どこまでその議論をするの、どこのテーマまで議論するんだというのでもまさにこれからちょっと決めてもらいたいという部分なんです。

情報、社内のマニュアルを見てわかった、わからんという以前に、もうちょっと前段のことをこの地域の会ではやらないかと。国の一元管理というところではなくて、それではだめだから国はこうしてくれというところまで例えば議論しようじゃないかと。それで、おれはこう思うからそれを国に伝えてくれという提言をしてくださいますということであれば、これはまたそれをみんなで議論すればいいわけで、ここまでできて、ここまでができないというのは、権限と責任という問題もあるので一概には言えませんが、やはり最初からなかなか決めにくい部分があると思うんです、今の段階で。そこらをまたみんなで意見いただきながら我々としても考えていきたい、皆さんにもお考えていただきたいというところなので、ぜひ具体的な提言をいただきたいんです。

宮崎

ちょっとすみません。この会がどれくらいの権限を持つかということが心配ということがなかなか吹っ切れないと思うんですけれども、それは私たちもし仮にここで話し合いして何かまとまったと。ここに評決のあれ書いてあるんですけれども、仮にまとまったとしたって、このまとまったものをだれが受けとめるかという、受けとめ先がはっきりしていない。あるいはそれを強制するものもないという、そういうときでも仮に運営されたとしても心配あるということはありません。

それで、私これ本当に思いつき程度のことなんですけれども、もともと国が推進委員会ばかりあって、規制委員会という、本当に権限を持った委員会は日本の場合ないんですね。先ほどベルギーの例を言われたけれども、ベルギーにそれがあるのかどうかわかりませんが、住民の組織があったって、必ずそういう国の中に規制委員会というのを持って、推進派に対してブレーキをかけるようなのがあればできることなのかなと思いましたので、私たちの意見は国にそういう本当に独立した規制機関を設けてあれば、私たちこういうふうにいるなことを言っても受けとめる先があるなという気持ちはあるんですけれども、今の場合、この中に書いてある程度だと、相当考えて何か言ってみたって、受けとめ先が紙1枚にまとまってきたものを右から左に置いておく程度では何もならないなという、そういう始まったとしても心配なところがあるなという気はあります。

部長

おっしゃるとおりだと思うんです。国がどこまでそこをまじめに受けとめるのかというふうなところで、熊倉さん国はどの程度思っているの。

熊倉

いや、もうこれはだって国なんて今、話をしているところではないですから、これはまさにこっちの本当に地元から積み上げていってどうしましょうかという話をしているところなので、そこは確かにどうなるかというのは先行き全く不透明です、正直な話。ただ、それはそれとして、本当に地元はこういう意見があるんだ、これを伝えてくれというご意見があれば、それはその会としてそういう意見が出てくるのであれば、行政としてはそこを最大限配慮して対応はさせていただきたいと思いますし、ただ実際どういう運営状況になっていくのかまだちょっとこの先行き次第というところがあるんでしょうけれども。



部長

私が申し上げたのは、要するに今言った提言が出たと。例えば、県を通じてそれを国へ持っていったときに、ここに書かれたことは国はわかりましたということで尊重してくれるのかどうかという、そこまでの国とのやりとりまでは実は正直言ってしていないんですよ。そうじゃないと意味がないんじゃないのということの方はそれはおっしゃるとおりなんだけれども、我々としては今言ったように宙ぶらりんの状況です。ただ、やはり最大限尊重してもらえるようお願いをします。また、地域が一体になってそれを声に出すことが今までとはまたちょっと違った、法律的に効果があるとか、ないとかということは別に、それなりのプレッシャーにはなるんじゃないかなというふうに思うんですけれども、今のところはそんな段階なんです、正直なところ。

大分時間も経過しているんですけれども、渡辺さんどうぞ。

渡辺五

私もこの会に出るについてはいろいろ考えると大変だなというのが一つありますよね。それはまだここにもありますが、趣旨や目的がなかなか絞り切れないのではないかなというのがあるわけです。例えば、情報を出しますというのは、別にこの会つくらなくてもどんどん出してもらう必要があるわけで、あるいはここにこの会のメンバーに特別出したとしても、私個人で言えばその証拠能力がありませんから、だれかに見てもらうということになれば、この会の資料じゃなくて全体の資料になるわけですから、これは東電さんに言うみたいで申しわけないんですけれども、別にここにこれだけのものを出すというのは、これは全世間にオープンする性格のものだろうと私は思うわけです。

そうすると、この会の性格は何かと考えられるのは私なりに整理すれば、一つはちょっと言葉悪いかしりませんが単なる勉強会の場合と。賛成、反対の人が集まって勉強会をする場なのかどうか一つです。

それからもう一つは、そういう性格がここに付けられる、権限というかつけられると大変なんだけれども、極端に言えば今原発がこのぐらいになれば全号機停止して検査すると。その後じゃあどうなったかというときに、いやまだ納得できないんだと。この点が解明されていないじゃないかというときには、そういうじゃあ運転再開していいのかどうかとか、そういうところはどの程度影響力出るのか、そういうのがなかなかはっきりしていないと、割り切って勉強会だから出してみようというのであればそれはその程度でいいと思うんです。やはり心配するのは、反対の皆さん方今まで賛成の方もそうでしょうけれども、それぞれの立場で勉強をみんな研究してきているわけです。たまたま市や行政の皆さん方、反対の皆さんの意見は聞いているか知らないけれども、進める立場でどの程度反対の皆さんの意見を聞き入れてやってきたのかどうかわかりませんが、その差が今不信感として出ているわけですよ。だから、もっと行政で言えばこういう会議をして信頼関係をつくるというのも一つは大事なんでしょうが、同時にこの市としてもうちょっとこの会が権限があるというのも両面あるものですから私としては悩むところなんですけれども、それを皆さんに任せるという話では私はないような気がするんですけれども。

部長

おっしゃることは市で判断しなければならんことをこの場で委ねているのではないかと思います。

渡辺五

半分そんな気がしてならないんですよ。だから、この会の性格は入り口論争として、今までやってきたのに反省がないじゃないかというのも私もそういうふうに思います。ただ、同時にこの会を立ち上げるについては皆さんで勉強会してくれと、その程度だったらその程度の組織でいいのかもしれないですけども、どうもそうでもないですよ。

部長

私らを引くくめて、どこまで本当に責任と権限を持ってもらえるのかというのがちょっとあって、なかなかここまでやってくださいと、最後の判断までしてくださいよという、今渡辺さんがおっしゃったように運転再開を判断してくれと、これはやはり言えないと思うんです、現実として。我々としてもなかなか判断できない部分ですし、そこをじゃあどうするのかということで、それを投げかけてここをお願いしているところまでは今私らの頭にはないんですよ。じゃあ、どこまでなのというのが極めてファジーで、勉強会ではないかという話になってしまうんですけども、正直言って我々もちょっとそこを判断しかねるところです。こういうふうにしてくれというもし要望であれば、我々なりにない知恵も絞ってこれでどうですというのは出さなければならぬかなとは思っただけですけども。

内藤

先ほど市長が、村長もそうかもわからないけれども、ベルギーとかフランスではそういう監視するような組織があって機能して、そういうのが欲しいんだというような話どなたか・・・先ほどちょっと話したけれども、別にまねするという意味ではないんですけども、こうやっているような意見を持っている方が十分発言して、それはそれでいいんですけどもなかなか進まないの、例えばそういうフランスの事例ではこういう組織があってこんなメンバーでこんなことをやって、こういう成果が上がっているんだとかというのを何か参考までに聞かせてもらおうと、これを進めていく上で参考になるのかなという気もしますし、必ずしも今考えているものと全く同じかどうかは別にしましても、そうでないとこれをたくさんが言うように何をすればいいんだかというのもまだよく見えない。ただ何か今までの信頼、始からしていると言われると元もこうもないんですけども、事故、再発防止をこれもしてもらわなければならないし、信頼を回復するためにどうすればいいかということ、私もいろんな提案、提言みたいなものも技術系の問題ではありませんけれども持っているつもりなんです、できたらこういう場所で発表したいな、聞いてもらいたいなという気持ちもあったんですけども、それ以前の問題がなかなか進まないものですから、何かそういう参考の事例とかあるようであれば提示してもらって、今日はなくても、もう準備していないでしょうから今日でなくてもいいんですけども、次回それをたたきながらやるのも一つの方法かなと思いますね。

渡辺丈

私、東京電力さんの原発に関しては今までかかわりも全くなく、今回このような指名がありました、それでその指名を受けたときから1週間ほどありましたもので、自分なりに今言われたような何ができるんだろうかということを考えているときに、最終的にはわからないというのが結論です。ただここで2本の柱の中の監視というところで、自分にとってどういうふうなことが監視としてできるんだろうかということがありますし、それから

この準備委員会から将来委員という形になっていくのであれば、これを住民にどのように私が伝えられるのかなど。こんなところの情報提供というものが非常に頭の中によぎっております。

いずれにしても東京電力は信用回復しなければできない企業ですよね。それから、私どもは住む立場として不安を与えてもらいたくないわけですから、この不安をどのように解消していくんでしょうかと。それから、それには何が必要なんですかというようなことで今議論するんでしょうけれども、いずれにしてもやめるとかそういうことではなくて、最終的には信用回復しない限り常にこのような問題が起こって、先に進まないような、逆に悪く悪く転回されていくような形になってしまっただけは何も意味がないものですから、こういう準備委員会を利用して信用回復に努めてもらいたいし、それから我々ももっと安心できるような、近隣にいて、そのような印象とか、現実を与えてもらいたい、こういうふうに思っています。

東電

今のご意見でございますけれども、信用といいますか、信頼の回復はこの準備会でお話をして、私どもは直接そこへ結びつくとは思っていませんで、信頼回復というのは未来永劫地に落ちてしまっていますので、発電所がある限りずっと続けていってやっともとに戻ることかなという気は実はしております。

それから、先ほど武本さんからもお話ありましたけれども、監視という視点で、これは全く私どもも実はそうなんだろうなと思っています。被告という言葉についても私どもも使いましたし、村長からも言われました。この中では使っていませんけれども、そういう気持ちは持っていて、私どもが事業運営していくに当たって、二度と不正をしないといえますか、そういった決意を新たにするためにも情報をちゃんと出して、発電所運営の透明性をちゃんと見てもらう、監視してもらうという観点で、この場で立ち上がったあかつきにはいろんなことで説明といいますか、情報提供をさせていただくとか、・・・見ていただくと、・・・いただくというような・・・私どもとしては申しわけないんですがありがたいというふうに思っています。

部長

予定していた2時間の時間がちょっと過ぎてしまったんですけれども、もう少し話したいなという気はあるんですが、・・・もありますし、私自身も・・・されたので、こういう会議というのは・・・感じにさせられまして、・・・不具合もあったので申しわけなかったんですが、少し今いただいた意見をちょっと整理してみたいと思います。それで、次回をちょっと年明けに考えているんですけれども、まだ少し気持ちの整理が必要かなという感じがするので、皆さんからこういう点がわからない、こういった点、ここをこうしたらどうだというのをいただければありがたいんです。手紙でも電話でも結構ですので、あるいはお出でいただいても、もちろん結構ですので、いただいて、それをちょっと我々の方で整理して、・・・間に合わなかった・・・余りそれを出すのはいかがなものかというのが実はありまして、遠慮して・・・目的とか、・・・こういうふうに・・・我々は考えてみたいというのがもし差し支えなければ私どもの整理したものを、そういった意見も踏まえながら出させていただいた中で、それをもうちょっと具体的に出示してもらった中で、それをたたいていただく方向

でよければこの次はそのようにいたします。

私たちも本当に自由に何がわからないのか、どこが疑問なのか、ということで気軽に来たんですけれども、こういう方法が良いようですので、そうさせていただきますがよろしいですか。

内藤

ちょっと今のがちゃがちゃした意見を入り口の、ここで入り口論を言ってもどうしょうもないと思うものだから、部長がみずから頭下げてお伺いに行ったりして、入り口論を整理してもらわないと、次から。意見を出してもらったり、またあなたから説明してもらったり、そういうふうなことが必要だと思います。

武本

必要わかりますが、ものわがりの悪い連中がいて、そのそこを整理してもらわないと困るなんていうのは申しわけないけれども、私の前提をもう1回言わせてもらえば、東京電力は、あるいは推進派は原子力を信用できる、信頼できると言っていた人たちから、今のような発言をされることは、私は同じ机につく前提がないと思っているんです。

確かに、今のような話は私は物わかり悪いですよ。悪いですが、こんな事態をつくった責任の一旦は少なくとも我々も甘かったという説明はあります。もっと厳しくあるべきだったという反省もあります。しかし、そういうことは関係ないんだ、地域の開発につながればいいんだということで、こういう問題をおろそかにしてきたそういう立場を棚上げして、こんな発言をされるというのは同席することに非常に違和感があります。そこらの信頼といいましょうか、前提を議論しないで何ができるか。私は行政よりもその地元で旗揚げをしてきた人たちに対してこのことを強く指摘したいですね。そこがそうは言ってもここに住んでいるんだから話しようということまで我々は議論して望んでいるんですよ。それなのに、物わがりの悪い連中がいて、そこを行政との間で詰めるみたいな話になれば、私の理解は少なくとも行政は東電の提案が契機だったかもしれないけれども、それではならないということで行政がぶつけて、ここで議論しようという話になっている。それが当然会の名称だとか、趣旨だとか、そういう前提から議論しようという話になっている。それなのにそこは関係ないと言われる人もいるということはわかりましたが、それは当然議論の対象だろうと。

それから、そんなものはみんなして集まって議論ばかりしていても前へ進まないというのわかりますから文書で提案せいというのもそれわかりましたが、それはやはり一定の議論は必要だろうと。おれは本当にこれまで進めてきた人は切腹ものものが起きているのだらうと思いますから、そういう行為に対しても対外的にやはり発言していく責任がこれまで旗揚げしていた人たちもあるのだらうということはここで議論したいですね。

部長

わかりました。さっきいろいろ会の趣旨の点を議論してもらわないと、いろんな意見を持っていることはなかなかスムーズに一同に会するという事は難しいなというのがありまして、そこは十分整理した上で納得をしてもらった上で、会してもらったものではないというのはこちらの不手際でありまして、そこも含めて、会の趣旨とか目的も実はつながるところですので、そこはやはりみんなで議論してもらいたいなと思っておったわけです。正直のところ、そういう経過もありますので、もう少し我々として整理して具体的なたた

き台を準備しながらちょっとやらせていただくということで、次回もぜひお集まりいただきたいというふうに思いますので、我々も勉強させていただきますので、よろしくお願いをしたいと思います。

司会

どうも定刻の時間を過ぎまして長い間ありがとうございました。きょうは本当に初めということで、・・・何もわからなくていろいろと議論を出してもらったわけですが、それぞれいろんな考え方をお持ちの方がいらっしゃるわけですので、それぞれの立場をそれぞれが理解をして発言をしていただくことで次への進展になるのではないかと考えております。次回はまだ日は決まっておりますけれども、年が明けたあたりがどうかと考えております。と言いますのは、きょうの会議のことをまとめまして、また皆様に報告をしながらご案内をさせていただければと考えておりますので、次回またぜひご出席をいただいて、意見をいただければと考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

きょうはどうも長い間ありがとうございました。